

# 第1学年〇組 道徳科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時

授業者

1 主題名 日々いきいきと前向きに

2 ねらい 主人公が苦手なことを努力し続ける姿について考え、話し合うことを通して、自分の目標に向かって、最後まで粘り強く努力しようとする心情を育てる。

教材名 こぐまのらっぱ （出典：「新しいどうとく 1」東京書籍）

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいや指導内容について

本時は、小学校第1学年及び第2学年の内容項目「自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うこと。」に関するものである。内容項目は、第3学年及び第4学年の「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。」につながっていく。

人は、充実した日々を過ごすために、自分のやるべきことをしっかり行わなければならない。1年生の児童も、学校生活を送る中で、朝の支度から始まり学習や当番活動、家庭学習などやるべきことが多くある。また、苦手なことややりたくないことにも強い意志をもち、行わなければならない場面もある。

本校では、1年生の道徳の学習において今回の内容項目は年間2回行う計画になっている。そこで、本時の前に「うかんだ うかんだ」の教材を取り上げ授業を行った。そこでは、できないことにも挑戦し、努力をし続けることについて考えさせた。主人公の苦手なことにも努力し続ける姿を通して、強い気持ちをもって努力することの大切さを感じたようだ。そこで、今回の授業では、主人公の「こぐま」の心情を通して、苦手なことにも最後まで粘り強く努力しようとする心情を育てたい。

### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、入学してからこれまでどんなことにも大変意欲的に取り組んできた。小学校で初めて経験する学習や行事、当番活動などに積極的に取り組む姿は、とてもいきいきとしていて輝いて見える。また、2学期からは各自が学習面と生活面について目標を掲げ、それに向かって努力をしている。本時の授業を通して一人ひとりが目標に向かって強い意志を持ち、努力している自分に気づくことができれば、児童の中に前向きな自己の生き方というもの芽生えるのではないかと考える。

道徳の授業においては、ワークシートに鉛筆を走らせる様子や、積極的に挙手をし自分の意見を発言する様子、友達の意見を聞いてうなずいたり首をかしげたりする様子から、毎回の授業に真剣に取り組み、考えを深めていることが伝わる。本授業では、「自分の目標に向かって、くじけず努力する」ことについて考えさせることで、苦手なことにも前向きな気持ちで取り組むことのよさを実感し、目標に向かって粘り強くがんばる児童の育成につながっていくと考える。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公の「こぐま」が演奏会に出るためにらっぱの練習を始めたが、上手いかず諦めようとする。しかし、諦めずに練習を続けて上達し、演奏会も大成功に終わるという内容である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合う。

①こぐまがらっぱを上手に演奏することができない場面

らっぱから音が出ないときの後ろ向きな気持ちに共感させる。

②練習してもなかなか上達しない場面

苦手なことから逃げたい後ろ向きな気持ちと、目標に向かって努力したい前向きな気持ちの両方があるということに気づかせる。

③こぐまが諦めずに練習を続け、演奏会が成功した場面

諦めずに努力を続けることの良さに気づかせる。



終末	4 教師の説話を聞く。	・投げ出さず続けることによって得られるものがあった経験を聞くことによってねばり強く努力を続けるための意欲を高める。
----	-------------	-----------------------------------------------------------

## 5 他の教育活動との関連

事前指導	学級活動の時間に2学期のめあてを立てさせる。
特別の教科 道徳	<p>教材名 「こぐまのらっぱ」</p> <p>主人公こぐまが、演奏会に向け、何度もらっぱの練習をするが、なかなかうまくいかない。こぐまは、練習をやめようかと思う場面もあるが、練習に励むこぐまの姿を通して、努力することの大切さを十分にとらえられるようにしたい。</p> <p>自分で行わなければならないことは、最後まで粘り強く行おうとする心情を育てる。</p>
事後指導	学級活動の時間に2学期に立てためあてに取り組み、学期末に振り返りをさせる。
家庭との連携	授業中に書いたワークシートを教室内にある「道徳コーナー」に掲示し、授業参観の折に見ていただく。

## 6 板書計画

## 7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・こぐまに自分を重ね合わせ、自分の考えをもっている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自分との関わりの中で諦めずに努力を続けることの良さを考えている。